

<今回>304回目 2021年10月29(金)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p364、2つの王朝 より

<前回>303回目(21-10-8)出席者 8名

資料(21-10-08-1)前回のまとめ(清水)

- 一2)年度末(22年3月)までの予定表(清水)
- 一3)韓国前方後円墳の調査報告(10・5配信)(岡田)
- 一4)平原遺跡とガラス玉の産地(朝日新聞報道)(高山)
- 一5)百問百答(東京古田会)磐井の乱(榛葉)

A 報告 皆さんの顔を見て意見交換はうれしい。このまま新型コロナが収束に向かうことを期待しよう。WEB では反応が今少しわからないので、楽しさ、面白みがすくない。

B 資料 3)韓国の通信社が日本語で、学術発表をしてきた。国立光州博物館の「新徳古墳特別展」として7月19日から24日まで展示されていたものです。「新徳古墳」には盗掘されていたには多数の副葬品が残されていた。30年前の1991年、その7年前に発見された前方後円墳を発掘したものだが取り扱いが微妙で7年間放置されていた。経緯も報道機関として微妙な心使いがされていたが、よく発表されたものと思う。韓国には10年前の2011年に見学に行っていた。当時も11, 2基(名前のついているもの)。あるいは14基あると言われていた。場所は光州の月桂洞 1号墳と2号墳の遺跡を前方後円墳として見学していた。現在も14基あるとされている。一4)平原古墳から出土のガラス玉の成分を奈文研の田村朋美主任研究員らが分析してシルクロードの一つ、「草原の道」を旅してもたらされたことが分かったと9月18日の日本文化財化学会大会(オンライン)で報告された。1960年代、原田大六氏が発掘した糸島半島の弥生遺跡で銅鏡40面(最大直径46、5cm)とともに青いガラス玉連珠が多数出土していた。モンゴルで匈奴族の墓から出土したガラス連珠がよく似ていることから、カザフスタン国立博物館と協力して成分を測定し、同じ場所で作られた可能性が高いと報告された。平原遺跡は謎が多い。40面の銅鏡はすべて破壊されて埋められていた。墓の真東に直径70cmの木柱痕が発見された。逆反りという大刀、ほかに武器はほとんどないという。一5)東京古田会が古田武彦先生との一問一答形式の資料集を発行した。その時「磐井の反乱」を当初「継体の反乱」としていたが自説を変更して架空の造作とした。現在読書をしている箇所なので、榛葉氏が本のその箇所をコピーを持ってきてくれた。2006年ころの説です。

C読書 359頁 古老伝えて云う

- 1)筑後風土記に磐井滅亡の記録があった。古老伝えて云う。(A)雄大迹天皇の世に当たりて云々(B)生平の時予めこの墓を造る云々 豊前膳県に逃し、腹いせに(土の怒りやまず)石人石馬を壊す。古老伝えて云う、上妻県多く篤疾有きと。蓋し茲に由るか。不具者が多いのは石人などの手足を壊した祟りという。(磐井の祟り)
- 2)筑後風土記には磐井の墳墓が具体的に数字で書かれている。後世の発掘調査と一致して真実性が高い。
- 3)風土記は磐井側に立って天皇側の視点を割り込ませ、戦いの民衆の負傷者多かつたことをにじませている。

次回日程 2021-11-8(月) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室

一11-26(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室